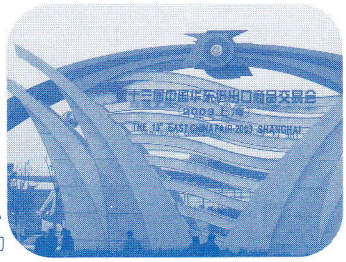
MORLIN http://www.morimatsu.net

波紋

平成15年 4月
April
No.214
PUBLISHER：森松株式会社
EDITOR：梅田文康

成功させよう！ 愛・地球博
Exposition of Global Harmony

第13回華東進出口交易展示会



3月1日から7日まで、上海で第13回華東進出口交易展示会が開かれ、森松からは森直樹社長、特販の伊東、三浦、企画営業部から齋藤が見学をしてきました。

展示会場はビッグサイトの2倍ほどの広さがあって1号館から5号館に分かれ、参加企業は国内外から2,000社にのぼります。X線での厳重な荷物検査を受け、私たちはアパレルを除く3,4,5号館を重点的に見て回りました。今回は2班に分けて動いたために効率よく回ることが出来ましたが、1日で回るのはほぼ不可能という広さです。

ブースではどこに行っても日本人の姿があり、日本語が飛び交っていました。そのためもあってか、展示されている商品は既に日本へ輸出されているものが多く、日本未輸出という新商品はあまりなかったことが特徴です。日本語の通じるブースでは、日本向けのパンフレットが置かれています。今回は家具や小物を注意して見ましたが、家具については特にその特徴が強く、オリジナル製品にはほとんど出会いませんでした。中国が新商品を開発するというよりは、諸外国が中国へ企画を持ってきて安価で製造するという形がそこからも見えてきました。

私たち森松も、オリジナルな企画を持ち込んで中国で試作を行い新商品を開発するという、その流れを見据えた中国取引をしていかなければなりません。展示会見学と合わせて新規工場数社も訪問してきましたが、優れた工場はこの大地にはまだまだあるのです。それをどう探しどう生かすかに、今回の出張の鍵があると思います。今回は森松上海事務所の倪と合わせ5名で行動したことで、目標へ向かって1チームとなる共通認識も生まれました。

PPに関しては、今まで以上に商品の幅を広め、オリジナル製の強い企画開発に力を入れていきたいです。また、今まで携わったことのない異業種向けの商品も、この展示会での見聞を生かし、森松の中国貿易発展につなげたいと思います。

このような会を見学させていただき、ありがとうございました。成績をもって会社へ貢献したいと思います。

齋藤　浩一（プロジェクト八）

～「上海にて」～

昨年七月に訪れてから久しぶりに上海へと展示会見学、出張で行って来ました。昨年度よりすべての国際線が市街地から車で小一時間ほど離れた浦東国際空港に発着することになりました。よって空港へのアクセスが不便になるということですが、昨年末にはリニア鉄道の試運転が始まりました。浦東国際空港駅と市内地下鉄二号線の始発駅「龍陽駅」を結ぶ31km間にリニア鉄道、最高時速は430km、所要時間は八分とのこと、また総投資額は100億元だそうです。また昨年十一月には上海市嘉定区安亭にF-1サーキットの建設が始まり、二千四年には上海でF-1が開催されることになります。これらの事はそれだけこの地域の発展が急速に進んでいるということでしょう。

私は五年前から上海を訪れ、またその内二年間は住んでおりましたが、その変化は世界のどこにも見られないほどの速さだと思います。さらに五年もすれば東京ともニューヨークともつかない異文化と異なる時代が交じり合った景色が展開されているでしょう。海外に興味のある方なら一度訪れてみることをお勧めします。物価が安く生活レベルもほぼ日本の都市部と変わらない上海へは、近年日本からも仕事を求めて移住する人がいるという話も聞きました。確かに日本の物価感覚で考えるとタクシーを日本の電車感覚で使い、高級レストランでの食事を大衆居酒屋感覚で食べる。それほどの違いがあります。もちろん物価の安さだけではなく、日本から二時間前後と近く、見た目の人種が近いというのも親しみを感じます。発展途上の都市が持つ人々の活気と、綺麗に整備された公共設備がアンバランスなところが今の上海です。仕事でも休暇でも行きたいというのが私の感想です。

社長　森　直樹
naoki@morimatsu.net

『「お布施」って何？』

友人の親の葬式に参列しました。五百年前に建立された伝統ある禅寺で研修の道場も併設されていると聞きました。岐阜県土岐市にあります。和尚さんのすばらしい読経にしばし聞きほれて時間のたつのが早かった事。他の六名の坊さん達とのバランスが、まるでオーケストラの演奏会へ行っている気分でした。声の質、リズム、調子…。カラオケもプロ級の坊さんだと確信しました。日ごろから、お腹の底から声を出している訓練をしているのでしょう。四百～五百年前のお寺さんは葬式だけでなく、農業・医学・科学などすべての先進的知識が集合している学校のような、研究所みたいな場所でした。ナマグサ坊主の現代と大分違いますね。禅僧の大切な修行の一つに「托鉢」があります。朝早くから町を回りお経を読む。修行僧が家々を回る事により、人々に寄進の気持ちを起こさせる。我欲の塊である私たちの心の奥深く存在する、自分のものだ、自分の物だと、物に執着している自分から、物を放す機会を私たちに、自然に教えてくれている。それに対して禅僧は形の無い仏法を施してくれるのです。人々はかたち有るものを施し、形の無いもので報いる。その為に托鉢し、歩くのです。

網代笠をかぶると、顔が見えない、どこの誰か分らない修行僧にお金や、食べ物を差し上げる。知っている人だからお布施を差し上げるのではありません。

差し上げる側、と受け取る側との間にこんな気持ちが通っていたとは…。恥ずかしながらこの年になるまで知りませんでした。僧にもらっていただく事に感謝しなくてはいけないことを初めて知りました。

そういえばお盆の時、わが家の檀家寺和尚さんへお布施を渡しても、「ありがとう・サンキュー」と言うことを聞いた事が無い。

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏・南無。

森　信之

『裸祭り』

日本各地には、色んな祭りがあります。その中でも勇壮な祭りにあげられるのが国府宮の裸祭りです。正式名は、尾張大国霊神社、歴史は古く千二百年の歴史があるそうです。今の裸男が厄を落す為に激しくもみ合う様になったのは、明治の初めと言われています。以前から一度裸男になってみたいとの好奇心があり、この度村田さんのお誘いで実現する事になりました。

今年は2月13日会社のご理解を頂き参加して参りました。朝10時30分村田家到着、御家族の皆さんには大変なお心遣いを頂き有難うございました。お酒&ご馳走を頂いているうちに時間が迫っていよいよ準備、まずはお風呂に入り身体を清めて褌（フンドシ）を巻いて頂き、気分は最高、血が騒ぐ（酒の飲みすぎ）、午後2時スタート、お神酒と塩で清め気合入れ出発、近くの神社に集合、なおい笹に願い事を書いた布（なおい）を括り付け、まずは少人数でスタート、次の神社 又次の神社と練り歩き、各町内から集まったなおい笹が大きくなり裸男達も大勢に脹れあがってくる。寒いのは勿論だがいつの間にか寒さも忘れ裸男達の先頭にいた。1時間ほど練り歩き、いよいよ国府宮神社に到着。大勢の裸男達が私達の到着を待ち望んでいる中、なおい笹を境内に奉納と同時に桶部隊が移動、神男の登場だと思いきや、ダミー（神男の偽者）が登場、裸男の群集はダミーに振り回される。自分もその中の一人、一緒に参加したI君もY君も姿無き、早々迷子になってしまったのである。今更探すにも探せぬ群集のなか（裸男参加者九千人）神男に触れたい一身で近か付こうとするが進む事も抜けることもできない、倒されまいと自分の身体を支えるのが精一杯、足は絡み宙に浮き腕は肩の高さに上がったまま身体と身体が触れ合い桶部隊の掛ける水で湯気が上がり、異様な雰囲気。まさに死に物狂いだ、話には聞いていたがこれほどとは思わなかった。そのうち神男がなおい殿に担ぎ込まれ先ほどまでもみ合っていた大勢の裸男達が一瞬にて消えてしまいまるで別世界のようだ。日も暮れ、身体が振え痛みが走りボロボロな姿で参道を帰るが帰り道が解らん…？。出発の時、村田さんが腕にマジックで住所と電話番号を書いてくれたが、擦りあっている間に消えてしまったんだろう跡形もない、情けない格好で横を見ると、本部の立て看板が目にとまる一目散に飛び込み、電話を借りほっと一息（暖房が効き最高）10分位待つと、村田さんが迎えに来てくれた。有り難い、病院に担ぎ込まれていないか心配して探しに行ったとの事。大変申し訳ない事をしてしまった。皆さんすみません、本当に無事帰れたことが何よりの厄払いと思い帰路につく。

この度は村田家の皆さんには大変お世話なり心より厚く御礼申し上げます。

又機会がありましたら、裸男になります。

横山　敏秋（ユニティー）

『本　気』

年末から年始にかけて入院しました。過去に検査で1日宿泊程度で病院にいた事はあったのですが、1週間入院したのは初めての事でした。年末年始と言う事もあり病院もすいていて、本当にゆっくり出来たので今となってはもう少し病院に居たかったと思う事がたまにあります。入院の原因は肺炎、11月末くらいから調子が悪くて12月初めに病院に行った時に風邪と診断されてそのうち直ると思いましたが一向に直らず、12月20日頃再度同じ病院に行きました、「風邪です」そうかやっぱり風邪だな、ただその辺にくると自分の体が絶対におかしいと思いましたがもう少しで正月休み、がんばろうと思い休みに入る前日まで引っ張りました。その間、「ビールで喉を消毒したら直る」と心配してくれてビールを飲ましてくれる上司もいてなんとかごまかし続けました。

休みに入る前日はもう我慢の限界ある程度入院も覚悟の上の診断、「咳が1ヶ月もとまりません、肋骨も痛くて体も冷たいです」と正直に言いました。すぐにレントゲンを取られ結果は即入院。「途中で熱も出ていたやろ？良くここまで我慢したな」と感心されてしまいました。そういえば熱もこの間は測っていなかったな、それにこの時は毛布をかぶっても下半身が冷たくて多分半分あの世に行っていたのではないかと大げさに考えたりします。

最近相田みつを美術館のグッズを作る仕事をお客様から頂き、3種類の印刷の校正をやっている中で、この3種類のなかの1つ、過去にもよく皆さんも見かけていると思いますが、「本気、なんでもいいからさ本気でやってごらん本気でやればたのしいから本気でやればつかれないから、つかれてもつかれがさわやかだから」自分はこれが1番いいなと思い、多分あの体調の悪かった時は本気やったんやで、だから休みになるまで体がもったんや、そうあの時は綱渡りやったけど楽しかったなと納得していました。今までも1つの事に集中している時は体は元気なものだなと考え、常に本気にならなあかんと最近考えています。このグッズ、少し多めに作って置いておこうと考えています、と思っていたらなんと、3種類のうちのこの「本気」だけがキャンセルになってしまいました。それも印刷する当日に。あなたはまだまだ仕事に対して本気じゃないよと見破られたかな。そんな気がしたので明日から本気出します。

黒松　康郎（プロジェクト八）

読後感

「トヨタはいかにして「最強の車（カローラ）」を作ったか」

著者：片山　修

カローラと言えばトヨタの看板の車ですが、トヨタの車は非常に精密で故障の少ない車と言うイメージだけでデザインは非常に古臭いと言うかおじさんごのみの車で若い人には不人気なメーカーでした。

よく友人たちが集まってトヨタの車の話になるとよくトヨタは冒険しない会社だと言っていたことを思い出します。しかし、最近の車を見ると本当に変わったなあと感じます。特に奥田さんが社長に就任してから変わったように思います。

テレビの特集でBbと言う車の取材をしているところを見たのですがプレゼンテーションをしている社員が非常に若くアロハを着て説明していることに非常に驚きました。Bbをはじめヴィッツ、WiLL、カローラ等の販売実績を見ても明らかです。

これで若者の心をつかんだと思います。ただ、この本の中で色々な部署の方の苦労話しが書いてありますが、共通して私が思った事は物作りの原点と言うか決して妥協しない、執念と言うものを感じました。これこそ、豊田佐吉さんの伝統の継承だと思いました、それはモノづくりは人づくりと言うことで、いかに、モノつくりの心を持った人を育てていくかがトヨタの基礎になっているように感じました。

この伝統を守りながら常に危機感をもち続け世の中の変化にいかに対応する、（かえる）と言うことを若い人たちにいかに植え付けていくかが、大事になるのではないでしょうか。

何年か後に出るカローラが楽しみです。

吉岡　孝記（ドリーム7）

「モノづくり解体新書　四の巻」

日刊工業新聞社・刊

28件の商品の製造方法、15件の商品の原理が雑学としてまとめられた本。中では製造方法が興味深く読め、“瀬戸大橋の出来るまで”では、橋を組上げる橋脚の上面を、50㎝コンクリートを余分に高く打ち、この面を削って0.5mm以下の凸凹、１万分の１以下の傾斜に仕上る云々との事。

この精度でないと塔頂では20数倍に拡大され、塔やケーブルの施設に支障が出る由。長さ1,100m高さ194mの建造物でこの精密さ。振りかえって森松産業の生産商品の品質管理状態は？

「紙幣」では、流通の項で、‘91年のデータだが、日本に流通しているお札約40兆円の内、紙幣の券種別で、１万円札が約35億枚に対し、千円札は31億枚との事。

日常の感覚で万札より千円札の方が圧倒的に多いと思っていたが（私だけ？）…ちなみに５千円札は４億枚、５百円札などその他が16億枚の由。製造方法では「墨」が職人の手作業が大半の様で、説明の図＆文からもっと機械化が可能な工程が多く有り、それに依り本来の“書”の他に“グッズ”としての商品化の可能性も大いに有ると考えられるし、低価格化も計れるのではと思える。

後半に「プラズマディスプレイ」が有ったが、パソコンで身近な液晶ディスプレイの製造方法が載っていたらもっと興味深かったのだが。

上田　邦男（レインボー）

『変化の時代』

森松に入社したのは平成４年12月、早いもので10年が過ぎてしまいました。それを機に振り返ってみると、自分の身の回り、社会も大きく変わったのではないかと思います。

当時を振り返れば、携帯電話は高価なもので個人では持ち歩くことができず、もっぱらポケットベルを持つことが個人に連絡を取りやすい唯一の手段でした。今では、携帯電話契約数も七千四百万台強。家庭電話に掛けるよりも、携帯電話に掛けた方が個人に連絡を取ることが容易で大変便利になりました。

その後携帯メールの登場。電話を掛けなくても簡単な文書は瞬時に携帯電話側へ。用件を入れれば電話連絡が取れない時でも用件を知る事ができます。もう今では手放せないコミュニケーションツールです。パソコンも「Windows3.1」が登場した頃。現在のWindows XPに比べればとても使い辛かった記憶があります。その当時、私はＭＡＣを使用していましたが…。

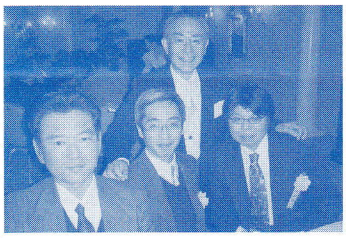
コンピューターも当時はワープロや表計算での使用が中心でしたが、インターネットなどが一般化し情報を得ることがとても便利になりました。入社当時の仕事で、金型版下を貰うまでに数日間待っていたのが、今では金型データを電子メールで版下送信元より貰い確認後、即そのデータで金型作成ができる様になりました。以前はこの作業までに１週間は優に掛かっており、今では１日も掛からず早ければ数分で依頼完了。仕事には、携帯電話・コンピューターが必需品になってしまいました。10年前ではこの様な手段は考えられなかったのですが、この先の年はもっと優れた情報手段が現れるのでは…。

森下　友博（プロジェクト八）

2003年 4月の予定

4日(金) 森下友博さん誕生日
5日(土) 第一土曜休み
モーリンゴルフコンペ
7日(月) プラスティック研究会
12日(土) 第2土曜休み
土田義紀さん誕生日
14日(月) 伊東郁二さん誕生日
誕生会
15日(火) 森ちかさん誕生日
19日(土) 永年会ボーリング大会 17時30分～
22日(火) 経営会議 7時30分～
営業会議 16時00分～
23日(水) 編集会議 18時00分～
25日(金) 生産会議 18時00分～
26日(土) 第4土曜休み
27日(日) 三浦政幸さん誕生日
下田サヨさん誕生日
29日(火) みどりの日休み

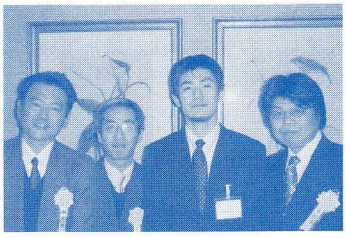
永年勤続表彰



「永年勤続表彰」

このたび愛知県知事表彰を頂き、入社15年（実16年）という重みをしみじみと感じております。今現在と15年前では世の流れ全体が随分様変わりしてきました。不景気による企業の倒産、リストラ、失業者の増加等、新聞・テレビ等で話題にならない日が無い程です。そんな渦中にあって、かくも長く一つの企業で働ける事は幸いです。想えば30歳で当社に御世話になり定年を迎える60歳まで丁度半分（折り返し地点）です。初心に返る（過去の経験も役に立たない時代）気持ちで勤勉に励み頑張っていきたいと思います。これからも皆様のご指導ご支援の程、宜しくお願い致します。

成瀬　勝英（ユニティー）



「永年勤続10年表彰を受けて」

今回の永年勤続表彰は中部ビニール卸協同組合創立50周年と重なり、記念式典もマリオットアソシアホテルで行われました。記念パーティーはホテルの51F（シリウスの間）で、大変見晴らしが良く、料理もちょっぴり豪華だったように思います。本当に有難うございました。

森松に32歳で中途入社して、11年6ヶ月となります。本当にあっという間の10年だったように感じます。年齢も44歳となりましたが、まだまだ頑張って働かなくてはという気持ちで一杯です。これからも宜しくお願いします。

村田　恒夫（ユニティー）

「永年勤続」

本当に、あっという間に10年だったと思います。森松で過ごした事になり、思い返すといろいろあったと感じています。

入社当時は、本社で裁断・巻き取り・プレス（5号機）を約7年半過ぎた処で、要工場に移動し、プレス（1・4号機）・出荷業務、現在はNC及び総括担当として、勤務する日々が続いています。

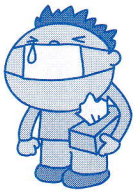
永年勤続15年、20年と迎えられるようにこれからも頑張っていきますので、宜しくお願い致します。

西垣　浩司（レインボー）

編集後記

だんだんと過しやすい季節になってきましたが、花粉症の私にとっては嫌な季節でもあります。

2、3年前から、くしゃみや目のかゆみなどの症状が現れたので、もしかしたらと思ったのですが、病院へは行かず市販の薬で対応していました。でも、私は何の花粉がダメなのかなとか、本当に花粉症なのかなと思い、つい最近病院へ行ってきました。診察をしてもらったら、多分スギだろうとと言われました。血液検査をすれば、一週間で詳しい事が分かるといわれたので、検査をしてもらう事にしました。結果はスギと名前は忘れましたがイネ科の花粉だと分かりました。

今は自分にあう薬をもらって飲んでいるので、症状も軽くなり楽になりました。もっと早くに病院へ行くべきだったなと思いました。

小坂　美香（ドリーム7）